

日本家族性腫瘍学会 2015 年度第 3 回理事会 議事録

日 時：2015 年 10 月 30 日（金）18:30～21:00

場 所：国立京都国際会館 Room 552

出席者：富田尚裕、田村和朗、青木大輔、石川秀樹、石田秀行、大住省三、
鈴木真一（途中退席）、菅野康吉（途中退席）、武田祐子（途中退席）、田村智英子、
松原長秀、三木義男、村上好恵、執印太郎（監事）
（選挙管理委員長：岩間毅夫）
事務局、編集事務局：飛松、欠席：数間恵子（監事）、

報告事項：

1. 富田理事長の指名により、選挙管理委員長の岩間毅夫先生より、選挙管理委員会について説明があり、国立がん研究センター 中島 健先生、慶應義塾大学 吉村公雄先生が選挙管理委員に就任され、選挙管理委員会が発足したことが報告された。また、選挙スケジュールについて、説明があった。
2. 事務局より会員数および年会費納入状況について報告があった。また 2015 年 6 月 1 日から 10 月 15 日までの新規入会者報告があった。
3. 各種委員会報告
 - ①総務委員会：田村和朗理事より、緩やかではあるが、会員数が増加しており、650 名を超えてきているが、より一層の会員増加を目指していきたい。
 - ②財務委員会：報告事項はなし。
 - ③将来検討委員会：報告事項はなし。
 - ④会則委員会：鈴木理事より、委員会メンバーが決定し、委嘱が完了したため、前回理事会で指摘のあった文言修正などを踏まえ、会則の改訂作業を進めて行くことが報告された。追加指摘などがあれば、会則委員会（鈴木理事）まで連絡をして欲しいとのことであった。
 - ⑤専門医・FCC 制度委員会：菅野理事より、制度委員会および第 18 回前期家族性腫瘍セミナーの会計報告があった。
 - ⑥編集委員会：石田理事より 16 巻 1 号の編集状況および J-Sgace 搭載の件について報告があった。第 20 回と第 21 回学術集会での投稿勧誘より、2 件の投稿があり、1 件はアクセプトしており、次号へ掲載予定、もう 1 件は今から査読作業に入ることとなっている。また申請を行っていた J-Stage 搭載システムについて、J-Stage より、搭載誌として採択された旨報告があり、具体的なスケジュールについては、未定のため、学会誌の発刊が遅れる可能性があるとの説明があった。
 - ⑦学術・教育委員会：三木理事より、次回の学術集会の中で教育セッションを設ける予定であることが報告された。
 - ⑧倫理委員会：武田理事より、今後、医学会の動向にあわせ、名称を、倫理委員会より、「倫理審査委員会」に変更することが報告された。
 - ⑨ガイドライン委員会：大住理事よりホームページリニューアルにあわせ、整備したガイドラインのリンク・掲載ができるように進めていきたい旨、報告があった。他学会とのリンク交渉を進め、広報委員会とも協力していくこととした。
 - ⑩国際委員会：松原理事より、学会ホームページに関連国際学会の情報の掲載をしている旨報告があった。今後も随時増やしていきたいとのことであった。
 - ⑪遺伝カウンセリング委員会：田村智英子理事より、資料配布があり、遺伝子配列バリエーションの病的意義の解釈を考える際の留意点についての確認および ASCO の遺伝性腫瘍（ゲノム）検査の新指針からの考察について、説明・確認などがあった。バリエーションの扱い・解釈をどうするかなどについて意見があり、原著論文にまとめて学会誌へ投稿し、掲載できるようにしては

どうかなど、意見交換が行われ、学会として何らかの対策をとるかを含め、今後検討していくこととした。

⑫広報委員会：報告事項はなし。

4. 石田理事より第21回学術集会開催および会計報告があった。有料参加者は303名であった。

5. 大住理事より、来年開催の第22回学術集会開催について案内があった。2016年6月3日、4日にひめぎんホールにて開催予定で、現在ホームページ作成中で、間もなく学会ホームページにリンク予定。企画の目玉として、教育セッションを予定しており、一番新しい情報が得られるような会にしたい。またノーベル化学賞が家族性腫瘍に関連していることを踏まえ、関連セッションを予定している。

6. その他

①石川理事より、難病指定関連について厚生労働省より予算がおりたため、市民公開シンポジウムを2015年12月または2016年1月の日曜日に武田理事と協力して行う予定である旨報告があった。学会としての協力要請があり、日本家族性腫瘍学会として後援することとした。また、難病のガイドラインとして重症度基準を作成中のため、何か意見があれば、連絡してほしいとのことであった。

②石田理事より、遺伝性大腸がん診療ガイドラインを改訂中との報告があった。日本家族性腫瘍学会から協力メンバーとして3名入っており、2016年1月の大腸癌研究会にて提示し、その後2018年1月をメドに刊行予定であるとのことであった。

③執印監事より、IRUD（未診断疾患イニシアチブ）の件について、意見・提案があり、審議の結果、次回学術集会でシンポジウムまたはパネルディスカッションなどを企画する方向で、執印監事、田村智英子理事から資料送付をしてもらい、学術委員会と次回学術集会会長の大住理事にて相談の上、講演の企画を行うこととした。

審議事項：

1. 青木理事より、2015年度補正予算について、以下の資料提示・説明があり、承認された。

・2015年度予算案（6月総会承認済）、2015年度会計年度変更に伴う追加修正補正予算案

FCCの会計を一体化し、会計年度を変更した。まず12月末で会計を〆、その後、2016年1月～3月で、再度〆とすることとする。ただし、FCC制度委員会から修正指摘が1点および2015年の追加修正補正予算案について、選挙関連費用の計上が漏れていたため、前回と同額を再計上することで、承認された。修正版をメールリングリストで配信することとした。

2. 青木理事より、2016年度（2016年4月～2017年3月）収支予算案について、FCC制度委員会を特別会計とした内訳表とあわせて、提示・説明があった。

法人化を目指すにあたり、学術集会会計をどうするかとの意見があり、意見交換が行われた。結果、税理士からのコメントとして必ず組み入れる必要はないが会計報告は必要であるとのことで、まずは、現状のまま組み入れず進めていくこととし、今後再検討を行うこととした。

3. 各種委員会審議事項

①総務委員会：田村和朗理事より、賛助会員を増やしていきたい旨、説明があり、利益相反の問題も加味した審議が行われ、賛助会員については、動向として減少傾向にはあるが、勧誘は進めていくこととした。

また、遺伝性疾患連絡協議会の動きについて、年1回の会議を行うに際し、交通費の予算計上が漏れていたため、再度申告をしたいとの依頼があり、承認された。事務局より確認し、財務委員会へ申請することとした。

②財務委員会：青木理事より、次回理事会にて再度予算審議を行うため、総務委員会の遺伝性疾患連絡協議会交通費および選挙関連費用を含め、各種委員会に、予算について再検討の上、必要であれば、再度予算申請をってもらうこととした。

③将来検討委員会：石川理事より、検討・審議を続けていた、Li-Fraumeni 症候群（LFS）部会を日本家族性腫瘍学会内に設置することについての提案があった。また構成員について理事会にて選出してほしいとのことであった。審議の結果、LFS 部会の設置を承認することとし、最初の部会長を、恒松由記子先生にお願いすることが決定した。また、学会として予算的なサポート等行うことも決定し、その他構成員については、部会長に決定していただくこととした。ただし、構成員の中に理事を1名入れていただくことを条件とし、次回学術集会で1セッションを設けることができないかを検討してもらうこととした。また委員会を次回学術集会時に開催することとした。そのための予算申請および部会設置についての項目を会則の中に組み込む方向で検討していくことも決定した。

④会則委員会：鈴木理事より、細則の中の4.および6.の項目が不要ではないかとの指摘があり、審議の結果、削除する方向での改訂作業を進めていただく事とした。また3年後を目途に評議員選挙の実施を行うことを視野にいたした改訂作業をお願いすることとした。

⑤専門医・FCC 制度委員会：菅野理事より2016年開催の第19回家族性腫瘍セミナー開催について、2016年8月19日から21日に国立がん研究センターにて開催予定である旨説明があり、承認された。また、FCC 制度の今後についての検討に加え、日本家族性腫瘍学会にて独自の専門医制度を持つべきかどうかなどの提案・審議が行われた。様々な条件、制約もあるため、まずは、会員数1,000名を目指した活動を行い、横断的に複数領域をカバーする方向で、継続審議をしていくこととした。

また、それに伴い、非営利一般社団法人化の手続きを進めることとし、石川理事が担当として、税理士に相談の上、予算を計上し、処理を進めて行くことが決定した。

⑥編集委員会：石田理事より、一般投稿が少ないため、評議員の資格要件として論文投稿を入れてはどうかとの提案があり、評議員選挙との兼ね合いも含め、継続審議とすることとした。またJ-Stageの搭載時期に応じて学会誌の発刊が遅れる可能性がある旨、説明があり、了承された。

⑦学術・教育委員会：特になし。

⑧倫理委員会：武田理事が途中退席となり、代理の田村和朗理事より、利益相反状態開示に関する指針（案）について、説明があった。前回総会にて承認された案をブラッシュアップしたものとなり、事前にメーリングリストにて募った意見も踏まえた形での資料提示があった。今後は、倫理審査委員会とは別に利益相反委員会として、委員長を大住理事にお願いし、内容検討、制定作業を進めて行くことが決定した。資料を確認し、指摘事項などあれば、メールで連絡をしてほしいとのこと。

⑨ガイドライン委員会：特になし。

⑩国際委員会：松原理事より、国際会議参加費補助（Travel Grant）システムの導入について提案があった。審議の結果、発表することを要件とし、まずは数年間限定で実施をすることが決定した。表彰は学術集会時とし、賞金額など詳細は今後検討していくこととした。

⑪遺伝カウンセリング委員会：特になし。

⑫広報委員会：村上理事より以下3点について、資料提示・説明があった。

- 1) リニューアルに際しての新サイトマップ（スマートフォンにも対応可能な形）
- 2) 遺伝診療部門一覧作成についての情報収集案について
- 3) 新トップページデザイン案について

審議の結果、サイトマップは承認とした。またデザイン案については、いくつかの意見があり、広報委員会にて再度検討の上、メーリングリストにて最終確認をし、リニューアル作業を進めていくこととした。

遺伝診療部門一覧作成についてのアンケート内容に関しては、送付先・回答対象者などについて各種意見・指摘があり、内容について広報委員会にて再検討を行うこととした。

また、一般の方を対象とした、病気についての説明などを見る事のできるページをトップにおいてはどうかとの意見があり、その方向で検討することとした。

4. その他

2年間で会員数1,000名を目指せるような方策を考えていきたいとの意見があり、継続審議とした。

まずは、法人格取得について、具体的に進めて行くこととした。石川理事を担当とし、次回学術集会での総会承認を目標に書類作成などを行って行く。

次回理事会は2016年2月～3月上旬にて、早急に調整を行うこととした。